

2021年 12月 12日 《 聖 餐 式 》

主 日 礼 拝

①8:30am ②10:30 ③1:30pm ④7:00

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②白川 達男兄

賛 美 讃美歌121番 ～メリークリスマス～

詩篇23篇

聖書朗読 ルカによる福音書1章5～11節

特別賛美 岡村ケン先生・サレム兄／宮川由紀子姉

メッセージ 「希望の光がやってきた！」

石井 潤 牧師

聖 餐 式 賛美「主イエスの十字架の血で」

献 金 聖歌229番 ～アメイジング・グレイス～

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 ～見つめ続けます～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆
《今週のお知らせ》

★本日も共に礼拝でき心より感謝致します！クリスマスの恵みを求めましょう！

☆今週の祈り会は ○早天祈禱会：明朝6時。 ◎祈禱会：①木曜朝10時半～

②夜7時半～（大和教会の祈禱会に参加）。○準備祈禱会：土曜夜8時。

★来週の日曜礼拝は、クリスマス礼拝です。〈司：白川兄／祈：石井兄〉。

《24(金)：イブ映画会19時 / 2(日)：新年礼拝[1日の初詣礼拝はありません]》

☆一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [12/12-19]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	ホセア 8-10	11-14	ヨエル 1-3	アモス 1-3	4-5	6-8	9/オバデヤ	ヨナ 1-4
新約	黙示録 2:1-11	2:12-29	3:1-13	3:14-4	5	6	7-8	9-10
チェック	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇

「希望の光がやってきた！」

～どうしようもない暗闇の中でもがくザカリヤに届けられた希望～

「さて、ザカリヤは、その組が当番になり神のみまえに祭司の務めをしていたとき、祭司職の慣例に従ってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。香をたいている間、多くの民衆はみな外で祈っていた。すると主の御使が現れて、香壇の右に立った。」

ウォルター・ワンゲリンが著した、「小説『聖書』(The Book of God)」(1998年出版)では、このバプテスマのヨハネの父親である祭司ザカリヤは釘職人でもあったと記されています。祭司としての職は安定的な収入がなく、仕事もこの時のようにくじで引いて当たったらその仕事をするという名誉職のような状況だったようです。鍛冶屋のようにふいごで火を起こして、大きな金属の棒を打ちたたいて精巧な釘を作っていたザカリヤ。その釘は何に使われていたか、それは、処刑のためでした。その時代の悪王ヘロデは次々に反対者たちを処刑していました。ザカリヤの作る釘は特別で、素晴らしいと王は絶賛していました。そんな悪王のために釘を作ることはザカリヤにとって非常に受け入れ難いことでしたが、貧しい生活をしていたザカリヤにとっては収入は不可欠であり、時の権力者の力は恐ろしい圧力を持っていたので、ザカリヤには何もできない現実がありました。

そんなザカリヤが一生に一度も与えられないかもしれない、聖所に入って香を焚くという特権に預かりました。彼は泣いていました。最も恐るべき神の御前に立ってその臨在に出会う香を焚くという名誉に預かったのです。民は外で熱心に祈っていました。角笛の音が鳴り響いていました。「主よ、わが民イスラエルをお救いください！」と。燃え盛る炭を香壇に置き、その上にたつぷりと香(スパイス)の粉を振りかけました。すると、その香りが一面に広がり、煙が勢いよく立ち上りました。その時、その香壇の右側に炎に燃えた光と共に、御使いが立ち、ザカリヤに語りかけました。その内容はバプテスマのヨハネの誕生についてでした。そして、その息子ヨハネはその後に登場するメシアであるお方と共に、イスラエルを救い、世界を救うようになることと伝えられます。子どもがいなかったザカリヤとエリザベス夫婦にとっては、69歳と64歳の年齢になって初めて息子が生まれ、育てることになりました。彼らにとっての大きな喜びとなったと共に、暗闇の世界に大いなる救いの光をもたらす時代を切り開く存在をこの世に送り出すという特権にも預かったのです。

そして、このバプテスマのヨハネは旧約聖書の最後の預言者、メシアをこの世に紹介する立役者として、その救いの土台がきちんと据えられるように土方工事をする現場監督のように、その使命を果たしていきます。それは、人々の心を作り直すという大切な使命でした。洗礼によって人々の魂を洗い清める。そして、イエス様は清められた器をさらに聖霊の火によって燃やし、神の器として完成させるお働きをなさいます。偉大な主の御手が動いた時だったのです。